

## イエス復活の信憑性

原田元道

### 証拠①：教義・世界観の変化

- ・ 復活に関する理解の変化
    - 旧約聖書では「死後」「復活」よりも「この世」で神がどう関わるかに重点→新約聖書では復活の教えは十字架と並ぶ**中心的な教え**
    - イエス様の生前、復活の教えは多種多様→イエス様の復活後、**統一的な教えへと発展**
  - ・ キリスト(メシア)に関する理解の変化
    - イエス様の生前、メシアとはローマ帝国の支配からイスラエル民族を解放してくれる王もしくは祭司→イエス様の復活後、メシアとは人々を罪の滅びから救うために**十字架刑で処刑された後、よみがえる(復活する)神の子**
  - ・ 安息日に関する理解の変化
    - イエス様の生前、毎週土曜日を主のために聖別→イエス様の復活後、イエス様が復活したとされる日曜日を「主の日」として**聖別**  
←ユダヤ人の民族的・宗教的アイデンティティの一つをあっさり(?)手放した
- ⇒弟子たちは実際に復活したイエス様に出会ったと考えるのが自然!?

### 証拠②：人々の変化

- ・ イエスの弟子たちの変化
    - イエス様の復活前、自分のこと(地位や名誉、身の安全など)を最優先(ルカ 9:46-48；マルコ 14:50；ヨハネ 20:19)→イエス様の復活後、自分のことよりも神の真理を優先(**迫害による殉教者多数、棄教者・改宗者はゼロ**；使徒 12:1)
  - ・ キリスト教の懐疑者(イエス様の弟ヤコブ)の変化
    - イエス様の復活前、「イエスを信じていなかった」(ヨハネ 7:5)→復活したイエス様が現れ、キリスト教会のリーダー的存在へと変わり**殉教**(I コリント 15:7；使徒 15:12-21)
  - ・ キリスト教の迫害者(パウロ)の変化
    - 復活したイエス様に出会う前、熱心なユダヤ教徒でクリスチャンを迫害(ガラテヤ 1:13-14)→復活したイエス様に出会い、迫害する側から迫害される側に転身し**殉教**(使徒 9:22-23；II コリント 11:23-27)
- ⇒偽りだと分かっていること、本当・本物かどうかの確証がないこと命は賭けない!?

### 証拠③：人々の証言

- ・ 復活後すぐの証言(性質④⑤)<sup>1</sup>
  - 「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。」(I コリント 15:3-5)  
←イエス様が復活されて直ぐ(数年～20年以内)にキリスト教の中心的な教えとして確立
- ・ 大人数による証言(性質①④⑤)
  - 「次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたらしく、大部分は今なお生き残っています。」(I コリント 15:6)  
←大勢の人に復活の真偽を確認可能
- ・ 迫害者(パウロ)による証言(性質②④⑤)
  - 「そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。」(I コリント 15:8)

<sup>1</sup>性質①②③④⑤は【補足】に示す「確からしさの高い歴史的証言の性質」の該当番号に一致します。

←敵対関係にあった人物がイエス復活を伝える宣教者に転身

- ・ 女性たちによる証言(性質③④⑤)
  - 4つの福音書で女性たちが復活にまつわる話に登場(マタイ 28:1-10 ; マルコ 16:1-8 ; ルカ 24:1-12 ; ヨハネ 20:1-2, 11-18)

←当時のユダヤ社会において女性の証言は軽視・無視(作り話なら登場させない)

⇒夢や幻や幻覚でもなく、弟子たちの作り話でもなく、実際に起こった出来事!?

#### 証拠④：空っぽの墓

- ・ イエス様が葬られた墓が空っぽだった(遺体がなかった)ことの証拠
  - ユダヤ人指導者は、弟子たちがイエス様の死体を盗んだと主張した(マタイ 28:12-15)
  - エルサレムのユダヤ人指導者は、墓の中の遺体を確認しなかった(できなかった!?) (使徒 4:1-22)
  - 4つの福音書で女性たちがイエスの墓が空っぽだったことを目撃した(マタイ 28:1-8 ; マルコ 16:1-8 ; ルカ 24:1-12 ; ヨハネ 20:1-2)
- ・ 単独では復活の証拠としては弱いですが、証拠②「人々の変化」と証拠③「人々の証言」と併せると有力な証拠
  - ←復活したイエスに出会った人々は実際に墓を確かめて、夢か幻か現実かを確認可能

#### イエス復活に関する他の仮説

- ・ 実は死んでいなかった←復活やキリストに関する理解の変化
  - ・ 弟子たちが遺体を盗んで復活を偽装した←人々の変化(特にパウロやヤコブ)、女性たちの証言
  - ・ 遺体が(何らかの理由で)紛失したので、復活を信じ込んだ←パウロとヤコブの変化
  - ・ 復活は幻・幻覚←500人以上に同時に現れた
  - ・ 復活は熱心な信者による妄想・思い込み←パウロとヤコブの変化
- ⇒4つの証拠全てを最もよく説明できる仮説は「死んだイエスは本当に復活した」

#### 【補足】

##### 歴史学的証拠

- ・ ある出来事が過去に起こったかどうかの確からしさ(可能性)を高める・低めるもの
  - 文書内に記された目撃証言や当時の状況
  - 考古学的知見
    - 歴史的事実(過去の出来事)を100%確実に「証明」することはほぼ不可能
- ・ 確からしさの高い歴史学的証拠の性質
  - ① その証拠(証言など)の出所が複数かつ独立している
  - ② その証拠を友好・利害関係のない者も支持している
  - ③ その証拠によって当事者(証言者)が不名誉を被る
  - ④ その証拠が実際の目撃者の証言に基づいている
  - ⑤ 証拠(証言の記録・文書など)の作成時期とその証拠が支持する歴史的出来事の時間間隔が短い

⇒証拠の示す状況・出来事・事実を最もよく説明できる話(仮説)を探す